

らう。一朝のおかる、もてこいといふ聲柄。重大夫の稽古だらう。彌々精進を怠らざれば浪花唯一のおかると歓迎さるゝであらう。力彌一つで應々京都から來演した出雲君の眞面目と熱心と忠實さを見よ。だから親由良之助に名譽回復の間隙をさへ與へず、大手柄をして山科へ歸つた。舞台の上では親も子もあるものではない各持場を大切にし他の範圍を侵さず邪魔にならぬに勤むべきである。柴治の平右衛門は性格と役柄に相當考慮されてあり藝の上に於ける貫祿もあつて三人侍は食はれ形。孰れから見ても明かに其の不鍛錬未熟を暴露して居た。文樂最近五年間に弟子が師匠に習ふを聞いた事なく、師匠が弟子に教ふるを見た事なし、平右衛門を研究したる事なきものならん、藝の研究鍛錬より組券賣捌きに忙しき現狀では無理もない事と涙が溢れた。嘘と思はゞ主なる臨席者重、廣助等に聞いて見玉へ。違ふといふたら審査員たる資格に影響するであらうと信ずる。これは北演會員丸野眞風、篠山藤昇軒の追善會の豫習であつたが、文樂の人達は三月廿七日文樂座で開演當日、芝居のチヨボに出演中とやらで全部入り變へた、御勉強〜。

豊竹古靱大夫を聴く會

本誌同人武智鐵二氏は三菱銀行大阪支店長として今回來任せし熊坂彌造氏歓迎の意を兼ね三月廿八日十三時堂島かどの樓に文樂座櫓下豊竹古靱大夫を聴く會を催したり、請待されたるは主として三菱系經濟家、大阪市有數の名士三十幾名、本誌同人太宰博士、高安博士、鴻池幸武、大西重孝、林秀雄等綺羅星の如く並べば新に活字とせる語本が銘々に配付さる武智氏は熊坂支店長並に一同に對し簡単に挨拶する所あり、熊坂氏は武智氏が事業界のために貢獻せし處、及び繪畫、淨瑠璃に關して盡瘁努力の多大なるを賞讃し而して天下の珍品古靱師の御殿、質店を聴き得る事を感謝すれば、古靱師は清六を伴ひ床上に顯はれ、妹春門松質店の段を語る各自手にせる活字本と對照一字一句も忽せにせず閉入る、一時間半餘にして了演、暫く休憩。見台を取替へ再び床上の人となり、今度は伽羅先代萩御殿を語る是も冒頭より椽下迄、一冊丸ごかし(休息)配膳時節柄物查詢達困難の中に於て萬端整備到れり盡せり、滿座歡を極め二十時頃解散せり嚴父正次郎氏は體軀偉大にして溫容恰かも溢

澤榮一の如し風格總理大臣として耻しからず幹旋甚だ務められたるを感謝す。

新養精會

四月十六日より五日間門司市日の出町稻荷座に開催す、其の要項左の如し

審査員

伊東	柳平	西村	紫紅
豐澤	團友	奥田	利生
吾孫子	櫓	澤田	金聲
三木	金星	(イロハ順)	

▲出演會費二十圓(獻金一切を含む) ▲申込人員百三十名限り ▲語時間二十分 ▲賞與大關關脇、小結。優賞五人、本賞五人。婦人優賞一名。團體優賞一名。七十歳以上の高齢者にそれ〴〵授與す。其の他例の如し

下關市岬之町(栗林南風方)

新養精會下關支部事務所

電話一四九四番